

第2回 生駒市制50周年記念友好都市候補地選定に係る懇話会 開催報告書

1 日時 令和3年2月9日(火) 10:00~11:00

2 場所 生駒市コミュニティセンター403会議室

3 出席者

(参加者) 森岡文夫、大原暁、池田英憲、井上良作、川崎ひろ子、大辻哲男、増田剛一

(事務局) 小林市長公室次長、渋谷市制50周年事業室長、伊田

梅谷市民活動推進課長

(欠席者) 堀口陽順

4 傍聴者 なし

5 議事内容

(1) 友好都市について

事務局より資料1・2について説明

<絞り込みに関する意見>

- ・市民ファーストで考え、アンケートの○の多いところを中心に選ぶ
- ・人口規模でバランスのとれるところ。大きすぎても小さすぎても交流しづらい
- ・生駒との距離が近すぎると、逆に来てもらいづらい
- ・来てもらうことも大切だが、まずは市民が行きたい・行きやすいと思うところ
- ・子どもたちにとって思い出が作れる場所を有していること

⇒上記の意見から、友好都市の相手先は市民ファーストで考えるべきであり、以前実施した市民アンケートの結果を重視し、資料2で○の多いところに絞り込むことで全委員了承。

福井市・敦賀市・豊岡市・南あわじ市の4か所に絞り込まれる。

<交流方法に関する意見>

- ・ベルステージを活用してお互いの特産品を販売すれば、市民だけでなく電車を利用する市外の人も訪れやすい。
- ・過去にイベントで他地域の海産物と生駒の野菜を販売したところ、生駒の野菜の売り上げも伸びた。こういった機会を増やせば、生駒の野菜ももっと宣伝できる。生駒にない自然条件から、生駒の地産地消と絡めた交流も生まれるのではないかと。

- ・コロナの影響もあり今すぐには難しいが、お互いの宿泊施設の利用補助をして市民同士が宿泊できるようになるとよい。また今の時期であれば、補助という形ではなくても宿泊施設から割引きなどの協力が得やすいかもしれない。
- ・お互いの宿泊施設の利用から裾野が広がり、スポーツチームの合宿などの誘致につながるとよい。
- ・スポーツを絡めた交流はどの地域とでも比較的行いやすい。
- ・子ども会では、様々な場所で宿泊・体験交流を行っており他地域とも同様の交流が考えられるが、遠隔地との交流は費用面で難しいので近場のほうが交流しやすい。
- ・芸術面では、作品の交換展示などの交流ができるため、どの地域であっても対応できる。

<その他の意見>

- ・友好都市締結後はお互いに行き来をするだけでなく、どんな施策をするのかを絡めて楽しいものをつくりあげてほしい。
- ・候補にあがったところとは、友好都市としてではなくても友好を深める動きをしてもらえれば、市民にとって喜ばしい。
- ・友好都市締結後は、担当課任せにせず市全体の取り組みになるよう、今後どう施策を動かしていくのかを決めてもらわないといけない。
- ・生駒市側だけのメリットを考えていると、相手方が受けてくれない場合もある。生駒との交流にどんなメリットがあるのかを相手方へプレゼンできるように、市として売り込み方を考える必要がある。

(2) その他

次回、日程調整

6 閉会